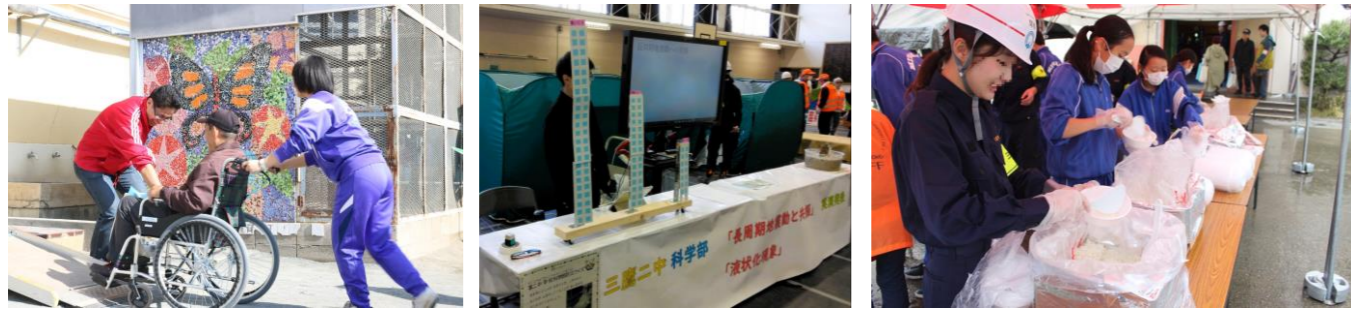


より深く、主体的な学びへ —地域に学習の成果を披露しよう—

自分たちで考えた課題や解決策、学んだことを地域や行政に向けて発表することで主体的な学びとなり、理解が深まります。また、地域の大人たちにとっても防災に取り組むきっかけになり、地域全体の防災力向上につながります。

- 公開授業として防災授業を実施
- 地域のイベントや防災訓練での発表



NPO法人Mitakaみんなの防災では、授業のねらいや学年に応じた授業の実施に向けて、様々なご相談に応じています。

※授業実施日に余裕をもってご相談をお願いします。
※謝礼は原則不要です。

- 事例のご紹介
- ゲストティーチャーの派遣
- 地域の関係者との仲介
- 教材の貸出

教員のみなさまへ

貸出教材の例

防災カードゲーム「なまずの学校」
地震などの災害で発生する様々なトラブルを紙芝居形式で出題し、トラブルを解決するのにもっともふさわしいと思う「なまずカード(アイテムカード)」を出して得点を競うゲーム。



避難所運営ゲーム(HUG)
避難者の情報が記載されたカードを避難所に見立てた紙の上にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事に対処していくかを疑似体験するゲーム。



クロスロード
ジレンマを伴う決断をゲームを通して体験することで、災害対応を自らの問題としてアクティブに考えることができ、かつ、自分とは異なる意見・価値観の存在に気づくことを目的としたゲーム。



絵本・DVD
授業の導入として使用できる教材など。

地域のみなさまへ

防災の知識や技術を学び、防災教育に携わってくださる方を募集しています。

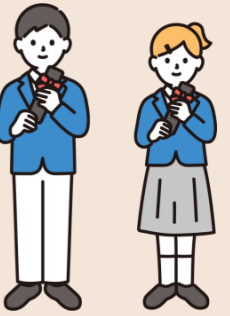
- 1 NPO法人Mitakaみんなの防災へお申込み
- 2 研修会へ参加
座学+実地研修 (※不定期開催)
- 3 「ぼうさいの先生」認定証の発行
授業での講師又は講師のサポート

研修・実習制度あり



みたか防災教育 カリキュラム

— 子どもたちに「生き抜く力」を —



なぜ防災教育が必要なのか

防災教育は「生き抜く力」を育むための教育です。私たちの住む日本は、海、山、川など豊かな自然に恵まれており、その恩恵を享受しながら生活しています。その一方で、自然は時として私たちの命や財産を脅かす存在にもなります。特に近年は、自然環境の変化等により風水害の被害が甚大化・多様化し、加えて、首都直下地震等の大地震の発生が切迫していると言われる等、大きな危機に直面しています。

こうした状況においては、子どもたち自身が「いつでも」、「どこでも」自分の身を自分で守る力(自助)と周りの人を助けることができる力(共助)を身に付けることがとても大切です。災害は予測が難しく、いつ、どこで発生するか分かりません。もし周りに頼れる大人がいない場合でも、子どもたちは自分自身で状況を判断し、行動する力を持っていない限りなりません。

また、子どもたちが防災について学び、発表したり実践したりすることで、家庭での備えが見直され、地域の大人たちの防災意識が高まるといった波及効果も期待できます。

さらには、防災力を身に付けた子どもたちが成長し大人になることで、防災が当たり前のこととして根づく文化が育まれます。その結果、地域全体の防災力が高まり、災害に強いまちづくりへとつながっていきます。

9年間の防災教育の実現に向けて

本カリキュラムでは、中学校3年生で目指すべき姿として次の2点を掲げています。

- 自分で考え、自分の言葉で伝えることができる人
- いざという時に、自助に成功し、まわりの人を助けることができる人

これを実現するためには、正しい知識とともに、自分で考え、判断し、行動する力を身につけなければなりません。これは一朝一夕に身につくものではなく、子どもたちの発達段階に応じて、小学校・中学校の9年間にわたる積み重ねを通じて徐々に育まれていきます。本カリキュラムでは、子どもたちの発達段階や教育課程にあわせて、必要な防災知識や技術を段階的に提示しています。

さらに、効果的な学習を実現するためには、地域の資源や人財を積極的に活用することも重要です。地域の力を借りることで、より実践的で充実した学びを提供し、地域全体で防災力を高めることができます。



釜石の奇跡

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、岩手県釜石市の小・中学校では、学校管理下にいなかった5人を除く全員が津波の難を逃れました。生存率99.8%というこの出来事は「釜石の奇跡」として全国的に注目されました。

この出来事の背景には、釜石市が取り組んできた「犠牲者ゼロ」を目指す津波防災教育があります。地震が発災した午後2時46分、釜石東中学校ではすでに授業が終わり、生徒たちは校内に散らばって各々部活動などを行っているところでした。そこに地震が発生。生徒たちは先生からの指示がある前に「津波が来るぞ、逃げろ!」と大声で叫びながら一目散に避難を始めていました。中学生は隣の小学校にも避難を呼びかけ、泣きじゃくる小学生の手を引きながら事前に決められていた避難場所へ移動しました。ところが、その避難場所に山崩れの危険性があることを察知した中学生は先生に進言し、さらに別の避難場所へと移動することで難を逃れました。この時、中学生たちは「助けられる人」から「助ける人」となって避難途中の乳幼児や高齢者のサポートも行っています。また、釜石小学校では児童の約7割がすでに下校しており、子どもたちは先生もいない、親もまだ帰宅していないという状況でしたが、それぞれがその時の最適な避難行動をとり自分の命を守ることに成功しています。

子どもたちは学校で学んだ防災教育の教えを実践し自ら行動することで「自助」に成功するとともに、避難の先導者となって地域の人を守る「共助」にも成功したのです。



Mitaka 特定非営利活動法人
みんなの防災

お問合せ先 / 特定非営利活動法人 Mitakaみんなの防災

〒181-0004

東京都三鷹市新川6丁目37番1号 元気創造プラザ5階

TEL/FAX 0422-26-7020

Email info@mitaka-minnano-bousai.jp

URL https://www.mitaka-minnano-bousai.jp/

ご相談はこちら



協力/ 一般社団法人みたかSCサポートネット、
防災団体やろうよ! こどもぼうさい、
三鷹市、三鷹市教育委員会

発行/令和7年3月

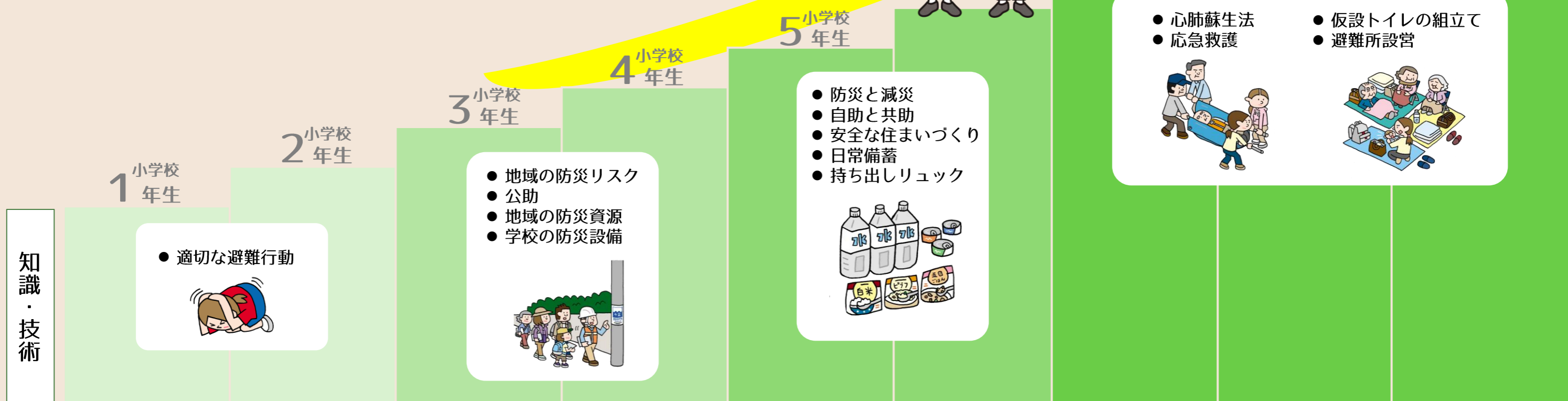
9年間の防災教育カリキュラム

- いざという時に、自助に成功し、まわりの人を助けることができる人
- 自分で考え、自分の言葉で伝えることができる人



<自助>
いつでも、どこでも、
自分の身を自分で守ることができる

<共助>
身に付けた知識や技術を生かして、
まわりの人を助けることができる



知識・技術

人間力

社会力

基礎的な素養を身に付け、自立して考え判断し、心身ともに健やかに心強く生きていくための総合的な力

多様な個性を尊重し、適切な人間関係を結びながら、社会に参画し、共に生きていく力



NPO法人Mitakaみんなの防災では、授業のねらいや学年に応じた授業の実施に向けて、様々なご相談に応じています。

■事例のご紹介 ■ゲストティーチャーの派遣 ■地域の関係者との仲介 ■教材の貸出 など

防災授業の例

—小学校—

ポイント

- 知識の習得だけでなく、自分で主体的に考え、行動につながるような仕掛けをしましょう。
- 過去の学習や学校の避難訓練等とのつながりを意識しながらプランを組むと発展的な内容になります。

低学年
生活

やってみよう！防災アクション

地震、津波、台風、火事などの災害が起きた時の避難行動を身体を動かしながら学びます。

- 推奨学年 小学校1・2年生
- 時間数 20分～45分

※避難訓練や学年集会等の一部としての実施も◎



中学年
社会

学校の防災設備探検

学校に備わっている防災設備を見学し、災害が起きた時に学校がどんな役割を果たすのかを学びます。

- 推奨学年 小学校3・4年生
- 時間数 45分



中学年
社会

防災まちあるき

学校周辺をフィールドワークしながら防災資源（防災無線、消火栓、公衆電話、AED、かまどベンチ等）について調べます。

- 推奨学年 小学校3・4年生
- 時間数 60分～

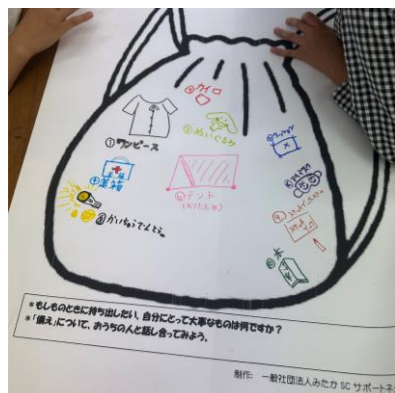


高学年
総合学習
道徳

マイ防災リュックづくり

持出しリュックに何を入れるかをグループで話し合い、必要なものは人によって違うことや優先順位のつけ方などを学びます。

- 推奨学年 小学校5・6年生
- 時間数 45分



高学年
総合学習
家庭科

災害時の食事とトイレ

家庭でできる防災クッキングや携帯トイレの使い方等を体験し、日常備蓄について学びます。

- 推奨学年 小学校5・6年生
- 時間数 45分



高学年
総合学習

イメージトレーニング 「家の中にいるときに地震が来たら？」

VR映像を使い、大地震が起きたら家の中でどのような被害が起こるかシミュレーションします。シミュレーションをもとに家庭での防災対策を考えます。

- 推奨学年 小学校5・6年生
- 時間数 45分



高学年
総合学習

6年間の集大成
いつでも、どこでも
自分の身を自分で守る

イメージトレーニング 「下校途中に大地震が起きたら？」

先生や家族が近くにいない状態で地震が起きたらどう行動するか主体的に考える力を養います。

- 推奨学年 小学校5・6年生
- 時間数 45分～





NPO法人Mitakaみんなの防災では、授業のねらいや学年に応じた授業の実施に向けて、様々なご相談に応じています。

■事例のご紹介 ■ゲストティーチャーの派遣 ■地域の関係者との仲介 ■教材の貸出 など

防災授業の例

—中学校—

ポイント

- 知識の習得だけでなく、自分で主体的に考え、行動につながるような仕掛けをしましょう。
- 過去の学習や学校の避難訓練等とのつながりを意識しながらプランを組むと発展的な内容になります。

防災設備の設営体験

学校の防災設備の組立てや備蓄品の使い方を学びます。

- 体験の一例
 - ・ 仮設トイレの組立て
 - ・ 応急給水栓の組立て
 - ・ パーテーションの組立て
 - ・ アルファ米の炊き出し

※体験内容は学校に備え付けてある設備に合わせてアレンジします。

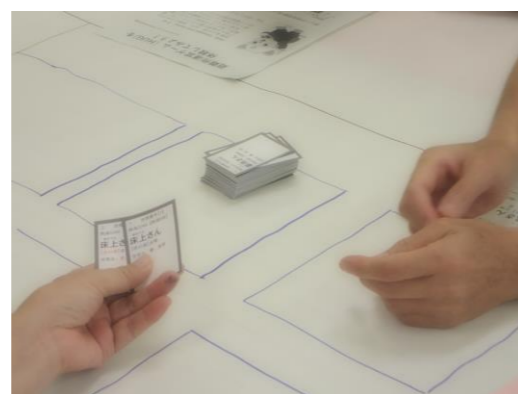
- 推奨学年 中学校1・2年生
- 時間数 45分～



避難所運営ゲーム (HUG)

ゲームを通して避難所運営を模擬体験します。配慮の仕方や合意形成の難しさ、共助の大切さ等を学びます。

- 推奨学年 小学校5年生～中学校3年生
- 時間数 90分



Disaster Imagination Game (災害図上訓練)

地図に生徒自身が書き込みをすることで、地域の特徴や資源、災害の危険性を「見える化」し、被害を最小限に抑えるためにはどうすればよいかを考えるシミュレーションゲームです。

- 推奨学年 中学校1～3年生
- 時間数 90分～120分



9年間の集大成
身に付けた知識や技術を
生かして、まわりの
人を助けることができる

避難所運営体験

第一部：避難体験

生徒同士が模擬家族となって避難所での生活を体験します。

それぞれのグループには「女性30歳：妊娠9か月」、「男性40歳：足を骨折」等の役が与えられた人がおり、この家族にとって最適な避難スペースはどこか、生活するにあたって何が必要かを考えます。

- 推奨学年 中学校3年生
- 時間数 50分



第二部：避難所運営体験

避難所運営委員会のメンバーになった想定で避難所の運営に関する様々な仕事を体験するとともに与えられたミッションに取り組みます。

■避難所運営委員会の仕事の例

避難所運営委員会	総務部	運営委員会の事務局、地域との連携、活動記録、ボランティアの受入れ・管理、その他
	被災者管理部	避難者名簿の管理、問合せの対応、郵便物・宅配物の取次ぎ
	情報連絡部	避難所内外の情報の収集、情報の発信
	物資供給部	食料・物資の調達、受入れ、管理、配給
	自炊部	食事対策、炊き出し
	施設管理部	屋内施設管理、危険個所対応、防犯・治安対策
	衛生・清掃部	衛生管理、ゴミ管理、清掃、トイレ、風呂、ペット対策
救護・保健部	救護、要配慮者対応	

- 推奨学年 中学校3年生
- 時間数 50分～



住民協議会や近隣の町会・自治会、PTAなど地域の方にも参加してもらうことで、地域の一員としての意識を育むとともに地域全体の防災力向上につながります。